大阪市都心部方言における身体感覚を表すオノマトペ

鏑木　昌博

はじめに

1．調査対象地　大阪市中央区内久宝寺町．大阪市中心部の商業地域で、船場のやや東に位置する．

2．調査年月日　1992年2月23日

3．話者　氏家由起子氏　昭和3年1月27日生まれ．満64歳．

4．調査者　鏑木昌博

5．調査場所　話者自宅

6．調査方法　『方言資料叢刊』第2巻調査票に基づく面接調査

I．全身の感覚

1－1．快不快

さっぱり　「サッ˥バリ

○汗をかいたが、風呂に入って～した．

1－2．寒さ

がたがた　「ガ˥タガタ

○寒くて寒くて～震える．

ぶるぶる　「ブ˥ルブル　<強>

○寒くて寒くて～震える．

ぞくぞく　「ゾ˥クゾク

○風でもひいたのかな．～する．

すうすう　「ゾーッ˥ト

○風邪をひいたみたいだ．背中が～する．

1－3．熱さ

ぽかぽか　「ホ˥カホカ

○酒を飲んだら身体が暖まって～してきた．

かっか　　該当語なし

○卵酒を飲んだら身体が～してきた．

II　皮膚の感覚

ひりひり　「ヒ˥リヒリ

○海水浴で日焼けして背中が～する．

べたべた　「ベ˥タ「ベ˥タ

○今日は暑い。汗で背中が～する。

むずむず　「ム˥ズムズ

○背中に何か入って～する。

もぞもぞ　該当語なし

○背中に何か入って～する。

かさかさ　「カ˥サカサ

○空気が乾燥していて、肌が～する。

がさがさ　該当語なし

○空気が乾燥していて、肌が～する。

すべすべ　「ス˥ベスベ

○温泉に浸かって肌が～する。

つるつる　シッ「ト˥リ

○温泉に浸かって肌が～する。

ずきずき　「ヒ˥リヒリ　<切り傷のみ。打撲傷は該当語なし>

○切り傷が～痛い。

○ころんで強く打ったところが～する。

ひりひり　「ビ˥リビリ　<擦り傷にも、火傷にも>

○擦り傷が～痛い。

○火傷したところが～する。

ずきんずきん　「ズ˥キ「ズ˥キ

○できものが腫れてきた。～する。

ぼとぼと　「ズッ˥キン「ズッ˥キン　<強>

○できものが膿んできた。～する。

＊　「ム˥ズムズ

○しもやけがひどくなって～する。

III　頭部の感覚

3－1　頭

がんがん　ズー「ン˥ト

○熱があって頭の奥が～する。

くらくら　「ク˥ラクラ（提示）

○熱で頭が～する。

「ズーン˥ト　「オモ˥タイ。

ずきずき　ズー「ン˥ト　<二日酔いになったことがないのでよく分からないが、強いて言えばこんな感じか。>

○二日酔いで頭が～する。

ずきんずきん　該当語なし

○二日酔いで頭が～する。

3－2　顔面

かっか　該当語なし

○恥ずかしくて顔が～する。

ぽっと　「ポーッ˥ト

○恥ずかしくて顔が～する。

3－3　目

ちかちか　チ「カ˥チカ

○テレビを見すぎて、目が～する。

しょぼしょぼ　「ショ˥ボショボ（提示）

○煙くて目が～する。

ごろごろ　「ショ˥ボショボ

○目にゴミが入って、～する。

3－4　耳

きーん　キー「ン˥ト

○ああうるさい。耳がまだ～とする。

じーん　該当語なし

○ああうるさい。耳がまだ～とする。

じくじく　「ジ˥クジク

○耳の中が腫れて汁が出ているようだ。～する。

3－5　鼻

むずむず　「ム˥ズ「ム˥ズ

○くしゃみが出そうで、鼻が～する。

ぐじゅぐじゅ　「ム˥ズ「ム˥ズ

○風邪をひいたようだ。鼻が～する。

つーん　「ツーン

○わさびを入れすぎて、鼻が～する。

3－6　口

（口全体）

ねちゃねちゃ　「ネ˥バネバ、ネ「バ˥ネバ

○納豆は嫌いだ。口が～する。

*　該当語なし

○梅干しを丸ごと食べると、口が～する。

*　モ「チャ˥モチャ

○あんまり甘いものを食べたから口が～する。

（歯）

がちがち　「ガ˥チガチ

○寒かった。歯が～鳴っている。

かちかち　該当語なし

○寒かった。歯が～鳴っている。

ずきずき　「ズッ˥キン「ズッ˥キン

○虫歯がひどくなって、歯が～する。

ちくちく　「ズ˥キズキ

○虫歯がひどくなって、歯が～する。

（舌）

ひりひり　「カーッ˥ト

○辛いカレーを食べたら舌が～する。

びりびり　「ビ˥リビリ

○辛いカレーを食べたら舌が～する。

3－7　喉

からから　カラカ「ラ

○水をくれ。喉が～だ。

いがいが　該当語なし　（　ノドガ　「イガ˥ライ。）

○あくの抜けていない筍を食べて、喉が～する。

いがいが　該当語なし

○この部屋は空気が悪い。喉が～する。

ぜえぜえ　該当語なし

○息が苦しい。～いっている。

ひゅうひゅう　該当語なし

○息が苦しい。～いっている。

Ⅳ　胴体の感覚

4－1　肩

こりこり　「コ˥リコリ

○肩が凝って～する。

4－2　胸

どきどき　「ド˥キドキ

○ああ恐ろしかった。まだ胸が～する。

どきんどきん　該当語なし

どっきんどっきん　該当語なし

○ああ恐ろしかった。まだ胸が～する。

きゅっと　「キュッ｣ト
　　○悲しくて悲しくて胸が～しめつけられる。

むかむか　「ム｣カムカ
　　○悪いものを食べたようで、胸が～する。

4－3　腹

（空腹）

ぐうぐう　グ「ー｣グー
　　○お腹がすいて～いう。

きゅるきゅる　該当語なし
　　○お腹がすいて～いう。

（満腹）

たぷたぷ　ダ「ブ｣ダブ
　　○麦茶を飲み過ぎてお腹が～する。

ちゃぽちゃぽ　該当語なし

ちゃぷちゃぷ　該当語なし
　　○麦茶を飲み過ぎてお腹が～する。

ぱんぱん　ポンポ「ン
　　○食べ過ぎた。腹が～だ。

（腹下し）

ごろごろ　「キ｣リキリ
　　○何か変なものを食べたようだ。腹が～する。

ぐるぐる　該当語なし
　　○何か変なものを食べたようだ。腹が～する。

ぴーぴー　「シ｣クシク
　　○下痢気味だ。腹が～する。

4－4　胃

しくしく　キュ「ーッ｣ト
　　○困ったことが多くて（ストレスがたまって）、胃が～痛む。

じくじく　該当語なし

きりきり　該当語なし
　　○困ったことが多くて（ストレスがたまって）、胃が～痛む。

4－5　尻

むずむず　「ム｣ズムズ
　　○居心地が悪い。尻が～する。

もぞもぞ　該当語なし
　　○居心地が悪い。尻が～する。

V　手足の感覚

（手）

ぶるぶる　「ブ˥ルブル

○手が～震えて、箸が掴めない。

（足）

がくがく　　ガ「ク˥ガク　（ひざ）

○歩きすぎて、足が～する。

「コ˥ブラガ　バンバンニ　「ハル　（ふくらはぎが張る状態）

（その他）

ぬるぬる　「ヌ˥ルヌル

○気持ち悪い。～したものが足（手）にあたった。

ぬらっ（と）　該当語なし

○気持ち悪い。～したものが足（手）にあたった。

VI　関節（骨）の感覚

ごきごき　「ゴ˥キゴキ

○寝違えて首が～する。

ぐきぐき　該当語なし

○寝違えて首が～する。

ばきばき　　該当語なし

○そんなに曲げると、骨が～（と）折れそうだ。

ぼきぼき　ボキボ「キッ˥ト

○そんなに曲げると、骨が～（と）折れそうだ。

まとめ

1．語形は、共通語形とさほど異っていない。また数量的にもそれ程豊富であるとは思われない。

2．程度差については、語形の変化（例、ズキズキ＜ズッキンズッキン）で表すことは少なく、次項のようにアクセントで表すことが多いようである。

3．畳語形のアクセントは、次のように解釈できるようである。

「○˥○○○　　基本形

「○˥○「○˥○　強調形

○「○˥○○　　文中に入った場合の強調形

○○○「○　　形容動詞の語幹になる場合

（かぶらぎまさひろ　大阪市立此花工業高等学校）